

復旧REPORT

あかだに 五條市 赤谷地区 (奈良県)

●施工：鹿島建設

■ 工事概要

本工事は、平成23年9月の台風12号によって生じた川原樋川赤谷地区の河道閉塞に対する緊急対策工事である。当工事では、台風12号で被災した県道734号線を整備して工事用道路を設置し、赤谷川沿いに堆積した土砂上へ進入路を設置する。その後、天然ダム貯水池に排水ポンプを設置し、貯水位をより低下させる。その上で、崩落した堆積土砂を掘削し、仮排水路および仮排水路護岸を構築、これによって川の水を計画的に排水させることで安定化を図る。仮排水路の施工に先立ち、施工中は仮排水路の下部に暗渠排水管を設置し、増水による越流のリスクを低減する。

■ 経緯

- ・9/2~3 台風12号近畿地方通過
- ・9/10 国土交通省が十津川流域赤谷地区の天然ダム対策の検討を要請
17:00～ 紀の川ダム統合管理事務所にて対策会議
- ・9/11 現地視察
- ・9/12 国土交通省へ状況及び対策案の説明
- ・9/15 国土交通省と工事着手協議
- ・9/16 工事着手

■ 現況について (3月5日現在)

赤谷地区緊急対策工事の仮排水路は、掘削土量が12万 m^3 に及ぶ大規模な重機土工である。他の地区に比べて流域面積が大きいため、降雨のたびに湛水池の水位が上昇し、これまで3回の越流が生じた。ポンプ排水等で対処しても水位はすぐに下がらず、水がわき出てくるため、掘削も思うように進められない。加えて、降雨のたびに崩壊斜面に残った土砂が泥土となって工事区域に流れ込み、さらに工事を困難にさせている。

これらは工事の進捗に大きく影響したが、現在は水位も低下し、工事は順調に進んでいる。2月初旬時点では工事用道路や進入路、防護土堤、仮排水路の護岸工事のうち底面部などの工事を完了。越流に伴う危険性が低くなったことにより、2月8日に災害対策基本法の警戒区域が解除された。現在は、残りの仮排水路護岸工事などを急ピッチで進めている。

■ 今後の課題

現場では、安全対策を最重点項目に掲げている。斜面からの再崩落等から作業員を守るため、崩壊斜面側に土堤を設置。この構築に、重機をリモコンで操作できる無人化施工を採用した。現在、仮排水路の構築と合わせて、降雨のたびに崩壊斜面から流入してくる泥水処理対策を実施中で、一部、斜面の安定化対策も行っている。雨が多くなる今後にも備え、特に出水期前には、工事を完成させるべく、安全第一で取り組んでいきたい。

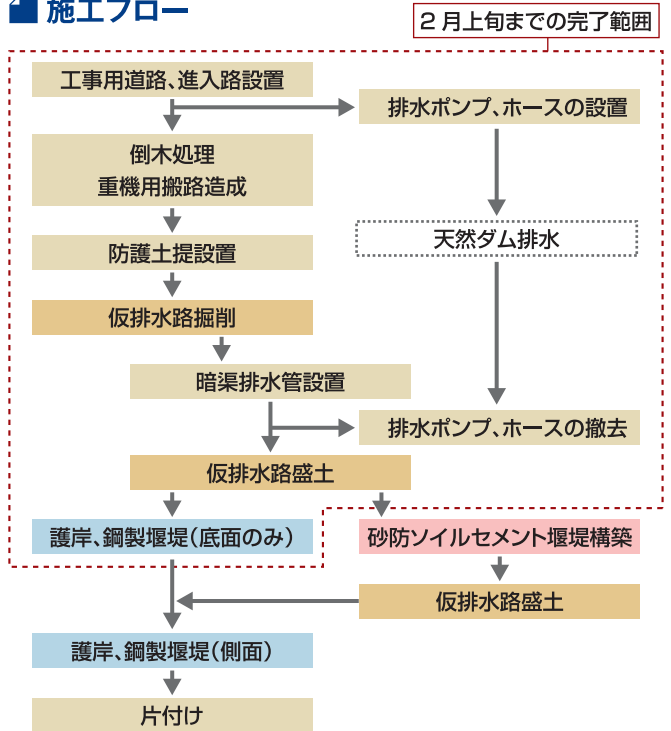


対策工事前 23.10.4



対策工事の状況 24.3.2

■ 施工フロー



倒木撤去状況 23.10.25



発電機搬入(ヘリコプター使用) 23.9.29



排水状況(8インチ10台:60 m^3/s) 23.10.26



仮排水路掘削状況 23.12.12



現場を指揮する船迫所長